

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----|
| I. 理念に基づく運営 | 22 |
| 1. 理念の共有 | 3 |
| 2. 地域との支えあい | 3 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 5 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 7 |
| 5. 人材の育成と支援 | 4 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 10 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 4 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 6 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 17 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 3 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 3 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 10 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 38 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 30 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 8 |
| V. サービスの成果に関する項目 | 13 |
| 合計 | 100 |

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

| | |
|-----------------|---------------------|
| 事業所名 | 有限会社 風 |
| (ユニット名) | シュアー |
| 所在地 (県・市町村名) | 岐阜県多治見市小名田町3丁目112番地 |
| 記入者名 (管理者) | 根生 千里 |
| 記入日 | 平成 19年 5月 3日 |

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------|---|---|--|
| I. 理念に基づく運営 | | | |
| 1. 理念と共有 | | | |
| 1 | <input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 玄関、1Fホール、事務所内、2F食堂に掲げている。1カ所(玄関)のみ全文を掲げ、他は理念の中心となる言葉を掲げている。毎月の通信に書いている。 | ○ 地域の方にホームの理念を知って頂くために、年に2回(8月・12月)に広報誌を発行する。 |
| 2 | <input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | ホーム内に掲げている理念の言葉を利用者さん、スタッフと話題として取りあげ、コミュニケーションの材料となっている。 | ○ 月1回の全体会議の最初に、理念の全文を交代で読む。日々の生活の中で理念を再確認する。身分証明書の裏側に理念を載せる。 |
| 3 | <input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる | 家族へは、毎月発行している通信に載せている。地域の方には、ホーム内に入ってもらった時、掲げている理念を話題として取りあげている。 | ○ 年2回の広報誌の発行と行事参加の呼びかけを行う。 |
| 2. 地域との支えあい | | | |
| 4 | <input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | 近所の方から畑でとれた野菜を頂いている。ホームで行う行事に参加してもらっている。 | ○ 今までより広い範囲で地域の方との交流をしたい。 |
| 5 | <input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 自治会(公園の掃除、神社掃除、子供みこしへの支援、班長、葬儀のお手伝い、ゴミ当番等)の活動に参加している。 | ○ 町内の独居又は老夫婦のお宅への配食サービスを行う。(例:花見弁当、夏祭り、クリスマス等) |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|---|--|------|---|
| 6 | ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 高齢者夫婦の家庭にお弁当、手作りおやつを届けている。今後も続けていきたい。 | ○ | 地域の方を対象に介護相談を行いたい。(出張介護相談を民生委員さんと連携して行う) |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | スタッフ全員で自己評価を行った。 | | 昨年の評価を元に、改善を全員で取り組んできた。(危険物の管理、玄関の案内) |
| 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 5月18日に開催を予定している。年間の開催日程と、今回の案内を郵送済み。 | | |
| 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市役所福祉課の方に、生活保護についてホームで話を伺い、その後、伺った内容をまとめ届けた。 | ○ | 障害児の日中見守り事業参加。(平成18年7月頃に市の説明会に参加した。受け入れのための部屋を確保している) |
| 10 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 勉強会を行った。研修に参加している。 | ○ | 今後も勉強会で理解を深めていく。 |
| 11 | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 全体会議で話し合っている。 | ○ | 高齢者虐待防止関連法について、勉強会を行いたい。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|--|--|--|
| 4. 理念を実践するための体制 | | | |
| 12 | ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約書、重要事項説明書の他に、補足資料を2部作成し、5月以降入所の方に説明している。 | ○ 家族会で細く資料の説明を行う。(6月予定) |
| 13 | ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ホーム近くの知人に自分の思い(不満、不安)を自由に話しに出掛けている。 | 本人の思いを家族に伝え、効果が出る様な働きかけを今以上に行っていく。スタッフ全員が利用者の思いをくみ取っていく。 |
| 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 月1回の通信、日常の事柄についてはFAXを利用。個人情報に関することは、封書又は電話で知らせている。 | |
| 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 通信で苦情窓口の案内、代表のメールアドレスを知らせている。 | 家族からは問い合わせについて、速やかに対応した。 |
| 16 | ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 申し送り、会議、仕事の中で、スタッフから自由に意見が出せる体制になっている。 | 職員からの意見について、リーダー会議(主任、管理者、代表)で話し合い、解決している。申し送りノートで全員に知らせている。 |
| 17 | ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている | 緊急時連絡網の利用で、柔軟に対応している。 | 夜間、深夜には夜勤以外に2名のスタッフが5分以内に駆けつけている。 |
| 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 希望休を取り入れている。学齢期の子供を持つスタッフの勤務時間等には、可能な限り希望を取り入れている。 | 育児休暇、有給休暇、介護休暇等、取得しやすい様に情報提供を行っている。 |

| 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|---|--|--|
| 5. 人材の育成と支援 | | | |
| 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 実務者研修、成年後見制度に関する研修、グループホーム協力研修に順を追って参加している。 | |
| 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 利用者募集時には、市内の施設に出向き常に情報交換をする様働きかけている。又、他の施設職員の実習の受け入れをしている。 | ○ 地域の他の施設等での見学及び実習を行いたい。(今年度中に実施予定) |
| 21 | ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | 何でも話しやすい雰囲気作りをしており、日頃からスタッフの相談にのる様心がけている。 | 個人的に話を聞いたり、相談にのっている。懇親会を行い、ストレス解消の機会を作っている。 |
| 22 | ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 管理者、主任、スタッフと個々に話し合う機会を持つ努力をしている。個々の状況に配慮した勤務体制を取っている。 | 研修への参加を積極的に勧めている。 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | |
| 23 | ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 相談を受けた時は、十分な時間を取り聴く姿勢を大切にしている。 | ○ 単独の個室がなかったが、今年度完成のホームには静かな環境で相談できる部屋を準備している。 |
| 24 | ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 家族の訪問時には、必ずスタッフが顔を出し話を聞く体勢でいる。 | 家族会開催時、家族同士の交流の場を設け、その中で出た問題に対し解決の努力をしていく。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|---|---|------|---|
| 25 | ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 医療面の充実を希望しておられた利用者家族に、施設との連絡を密にし支援を行った。 | | |
| 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | ミニカンファレンスを行い、スタッフの意見を検討した上でサービスを行っている。家族の訪問時や通信で報告している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 利用者一人一人の気持ちを大切に会話しながら、日々を過ごす様努力している。読書、花作り、裁縫、調理、片付け、会話等から昔の知恵を学んでいる。 | | 得意な事で活躍できる場を提供し、新しい情報や技術を伝えることで、日々の意欲へとつながっていく様努力している。さらに利用者との過ごし方を考え、学んだり、支え合ったり、良い関係を続けていきたい。 |
| 28 | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 職員は、利用者と家族の関係を大切に、双方の立場や考え方を大切にしている。 | | 今後も、利用者が一日でも多くを家族と共に過ごせる様な機会を計画したい。 |
| 29 | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 本人と家族との関係が施設入所により再構築される様支援してきた。入所により関係改善が見られた。 | | 利用者がよりよい家族関係を持てる様、お便りや色々な行事を行い、良い支援が出来る様努力している。 |
| 30 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 利用者とは会話する時間を多くし、話を聞きながら関係が続く様に心がけている。日々のドライブ等、外出時には馴染みの場所に立ち寄っている。 | | 写真に撮り、A4判の見やすい大きさに引き伸ばして部屋に飾っている。送られた手紙、はがき、電報等も見やすいところにある。 |
| 31 | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | ドライブの席、食事の席、散歩のメンバー等は気の合う者同士で行っている。 | | これからも利用者が快適に過ごせる様、利用者の立場に立って考えていきたい。共通の趣味、家事等を通じて、利用者同士の関係支援を行っていきたい。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|---|--|------|--|
| 32 | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 訪問したり、電話にて様子を聞いたりして、関係を大切にしている。 | | 転居、退居の方とも、現在も交流している。 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の性格等を考慮し、家族に連絡を常に行い、スタッフとも話し合いを行っている。 | | |
| 34 | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 今まで過ごされている環境等について、家族に情報提供をして頂いている。 | ○ | 今後も家族の面会時等に、昔のお話など聞いていきたい。 |
| 35 | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 少しの時間でも一対一の時間を作っていける様心がけていると共に、スタッフ同士での情報交換に努めている。 | ○ | スタッフ一人一人が利用者の現状を把握できる様情報交換を行っていく。 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 会議等で色々な意見を出し合い、話し合いながら介護計画を立てている。 | | 計画作成担当者、管理者、主任、利用者担当で話し合い、作成素案を元に家族、スタッフ全員で検討し介護計画を作成している。(素案を作ってから家族というのは、漠然と相談しても意見要望が出にくい為) |
| 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 3ヶ月、6ヶ月でケアプランの見直しを実施。変化が生じた時は、その都度話し合いを持って対応している。 | ○ | 1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月のケアプラン見直しを続けて行う。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|--|--|------|--|
| 38 | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日ケース記録の記入を実施。 | ○ | 今後も記録に残していけるものは、気を付けて残していける様心がけていく。 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 季節の行事(お正月、お盆等)や各家庭での行事に出掛けられる様、通信、FAX、電話等で呼びかけている。又スタッフと利用者が共に家庭へ出掛け、交流の支援を行っている。 | ○ | 家族にもホームに泊まってもらって誕生日、記念日等を過ごしてもらおう。又、体調不良時の付き添いをお願いしていきたい。 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | レクリエーションボランティア、学生の職場体験実習の受け入れを行っている。(救急車を利用した時はその後の報告をしている)福祉委員他、見学希望の方を積極的に受け入れている。 | ○ | 下校時、児童が安心して立ち寄れる場所として、教育機関に働きかけていきたい。例)こども110番など |
| 41 | ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 入退所について、地域のケアマネジャーや施設の相談員と連携体制を取っている。 | | 入所の紹介があった方について、その後の報告を行っている。(入退所の結果について報告を行っている)本人に合ったサービス機関の紹介を行ってきた。 |
| 42 | ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 運営推進会議のメンバーに加わってもらい、アドバイスを受ける機会を設けている。 | ○ | 家族会等に講師として出席してもらい、本人や家族の不安解消のための話し合いの機会を持つ。 |
| 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ホームから歩いて2、3分の場所にある診療所の医師にかかりつけ医になってもらっている。必要時は往診も可能。 | ○ | 土日、祭日、深夜の体調不良時にも対応してもらえる医療機関との連携。(平成19年7月頃より予定) |

| 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----|--|------|--|
| 44 | <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p> | | <p>相談のため、スタッフが専門医に会って直接相談し、日々の介護に役立てている。</p> |
| 45 | <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p> | ○ | <p>訪問看護ステーションとの連携を取り、病気の早期発見、重篤化防止に努めたい。</p> |
| 46 | <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p> | | <p>入院、退院時のご家族の役割、入院中の施設利用料の取り扱いについて、文書で知らせている。</p> |
| 47 | <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> | ○ | <p>家族会で終末期のあり方について話し合う機会を設ける。(6月予定)</p> |
| 48 | <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> | ○ | <p>終末期のあり方について施設の方針を文書で出している。個別のケースについて、8名について具体的な話し合いを行い、文章化する。</p> |
| 49 | <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> | | <p>転居先のスタッフに顔を覚えてもらうため、写真を撮り転居前に渡している。(本人、家族の了解済み)顔馴染みになるため、スタッフ同行し見学を行った。</p> |

| 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|--|------|---|
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | |
| 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | | 記録には個人名を書かず、スタッフ間で分かる方法で行っている。個人情報を外へ提供する時は、本人、家族の同意を署名にて得ている。 |
| 51 | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | | 食事、入浴、衣類、外出等について、一人一人に合わせた声掛けを行っている。又、選択肢を示し本人に選んでもらっている。 |
| 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | | 食事、おやつ(1時間前後の幅がある)以外は、基本的には自分のペースで過ごしてもらっている。 |
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | |
| 53 | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | | 起床時には洗面所誘導、洗顔、整容を行う。カットは必要に応じて行う。 |
| 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | | 近所の公園での食事会や、気候の良い日には外でのパーティー形式で行っている。(例:五平餅、豆腐田楽等) |
| 55 | ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | | 利用者とのコミュニケーションも兼ねて、10時と15時のおやつは必ず行い、利用者の嗜好を把握してその時々和菓子等を用意している。 |
| | | | 野菜類等の皮むき、食後の下膳、食器拭き |
| | | | 食後にはなるべくヨーグルトと果物を取り合わせていきたい。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|--|--|------|--|
| 56 | ○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 排泄リズムを把握することで、ポータブルでの排泄が可能となる。又、その人特有の排泄のサインを見逃さない様、タイミング良い誘導に努めている。 | | |
| 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 歩行可能な利用者には、タイミングに合わせて入浴支援を行っている。 | | 歩行困難な方には、浴室を暖めシャワー浴をして頂いている。又、全身清拭を試みている。 |
| 58 | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 申し送りにより、必要時はタイミングをみて昼寝等、休息の時間がとれる様支援している。 | | 不眠の時に、温かい飲み物を提供したり、足を温める等の工夫をしている。 |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 掃除の好きな方、茶碗拭き、針仕事の好きな方に、自分から楽しみながら行って頂いている。 | | |
| 60 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 「お金がない」と不安を訴えられる時は、財布に小銭を入れて、安心して頂いている。 | | すぐ、どこに置いたか忘れられるので、スタッフが預かることで安心してもらっている。 |
| 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 毎日ドライブに行ったり、おやつや食事を時々戸外で食べている。 | | |
| 62 | ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 家族と一緒に大切な人とのふれあいを支援している。 | | 特に、意欲を失ってしまった利用者は家族とのふれあいを必要としているので、取り組んでいきたい。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|---|--|------|---|
| 63 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 下書きしてあるものに、自分で絵の具を塗る。全然塗れない方は判を押したりと、楽しんで頂く。 | | 手紙を出したら、家族の方に返事をお願いしている。 |
| 64 | ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | 家族、その他の方が訪問された時は、湯茶のおもてなしをしている。 | | 利用者家族、知人の方には利用者の居室でお話をして頂いている。 |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 外に出たい利用者は外へ、寝たいと言われればベッドで寝て頂く様行っている。身体拘束を行ったことはない。 | ○ | 身体拘束することの弊害について、勉強会で学んでいきたい。 |
| 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中、玄関に鍵をかけない時間を多くする様取り組んでいる。 | | 利用者が外に出たい時、手の空いたスタッフがすぐ出られる様取り組んでいきたい。 |
| 67 | ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 利用者が1階、2階にみえれば、スタッフは様子が分かる所にいる様心がけている。 | | 事故を未然に防ぐ様にしているが、近所の方にもお願いをし、安全に気を付けられる様取り組んでいる。 |
| 68 | ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 危険な物品は手の届かない所、錠のかかる物入れ等に保管する様にしている。 | | スタッフに危険でない物でも、利用者には危険な物があるので、考えていきたい。 |
| 69 | ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 事故防止対策マニュアルを作成している。消防署の火災訓練を実施している。 | | 今後も年1回火災訓練等を実施していきたい。(6月日実施予定) |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|---|--|------|---|
| 70 | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 緊急時対応のマニュアルを作成。職員がすぐ駆けつける様緊急連絡網を作成している。 | | 消防署にて救命講習を受講している。 |
| 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 消防署の方を呼んで防災訓練を実施している。災害時マニュアルを作成している。 | ○ | 近所の方にも参加を呼びかけ、取り組んでいきたい。 |
| 72 | ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている | 一部の部屋の施錠について、時間帯と理由を説明し、理解を頂いている。 | | 玄関の鍵、台所の仕切、部屋の鍵について説明し、理解を得ているが、繰り返し説明を行っていきたい。 |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 毎朝の体温、血圧の測定。毎月の体重測定。変化が分かる様にグラフにして記録してある。緊急時の連絡先がホーム内の2カ所(事務所、2階)に貼ってある。 | | 出勤スタッフにすぐに伝え、申し送りノートに経過を記入しスタッフに報告。往診、受診、かかりつけ医に電話で相談。 |
| 74 | ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者一人一人の服薬目的、用法、用量等について、全体会議で勉強。 | | 用法、用量が変わると、申し送りノート、個人ファイルに記入している。少しでも変化のある時は、バイタルチェックをしかかりつけ医に報告、相談をしている。 |
| 75 | ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 便秘について会議、朝の申し送りで話をし、水分摂取量、運動、スタッフによるお腹のマッサージ。 | | 便秘になりやすい方の排便チェック表を作成し、記録している。 |
| 76 | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 毎食後、洗面所で歯磨きをして頂いている。義歯の方は、夜間ポリドントに浸けている。歯磨きの出来ない方は、スタッフが支援したりお茶を飲んで頂いたりしている。 | | 一人一人の歯ブラシ、コップが用意してあり、いつでも歯磨きできる様に手の届く場所に置いてある。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|---|--|---|
| 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎食時、おやつ時の水分補給。外出、入浴後の水分補給。月1回、食事のカロリー計算をしている。 | 一人一人の体調、体格等にに合わせて、食事量を調整。色々な食品を少しずつ盛り付け、品目数を増やしている。 |
| 78 | ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | 年に1回(冬)、利用者、スタッフ全員がインフルエンザ予防接種を受けている。排便処理後の塩素消毒。手に触れるドアノブ、椅子、手摺り、タンス等を週2回塩素消毒。スタッフは排便処理時、体調不良時にマスクを着用している。 | 調理、食事、おやつ、おしぼり作り等の前に、利用者、スタッフ全員が両手をアルコール消毒している。白癬の方には足浴実施し、洗濯やお風呂マット等を別にしてしている。 |
| 79 | ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | 調理用具使用前にアルコール消毒を行っている。賞味期限の切れている物は処分している。常温で置く時は、大きな密封容器に入れて管理している。 | 作り置き、残り物には、日時を記入して冷蔵庫に入れてある。ポット、台所、コンロは毎日掃除している。 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | |
| 80 | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 階段には手摺りがついている。ホーム周囲には季節の花を植えている。 | 玄関マットが用意しており、月に1回交換してもらっている。玄関が分かりやすい様に、外に案内表示がある。 |
| 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 光の調節が出来る様、窓には全てカーテンがある。音が漏れない様、扉、板などで1カ所ずつ仕切がある。 | 季節の花、季節の行事(正月、節分、お雛様等)各月の行事に合ったディスプレイをしている。 |
| 82 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 1階、2階ホールで、テレビや音楽を楽しめる様になっているので、好きな場所で過ごして頂ける。 | ○ 和室コーナーを作り、靴を脱いでゆっくと畳の上で過ごして頂きたい。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|---|--|------|--|
| 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 以前から使用している馴染みの物(タンス、テレビ、テーブル、敷き布団等)が、各部屋に置いてある。 | | 花の好きな方は、自分で水やりをし管理している。 |
| 84 | ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | 1階、2階ホールに温度・湿度計が設置してある。除湿器、加湿器が設置してある。 | | 掃除の時は窓を開けて行っている。消臭スプレー、お香などで、においに配慮している。 |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 歩ける利用者さんは、階段の昇降をしてもらい、食堂、浴室まで自分の足で来てもらう。 | | 動けない利用者に適した環境作りをしていきたい。利用者のプライバシーを尊重する。 |
| 86 | ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | 一人一人のペースに合わせて、トイレに必要なちり紙折りや、広告のメモ作り、食事作りで野菜を切ってもらっている。 | | 今後も一人一人に出来る範囲で出来ることをして頂く。 |
| 87 | ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | ホーム外周に花壇や植木鉢を置き、野菜の苗を植えて収穫時に利用者と一緒に野菜を取ったり、花の水やりをしている。 | | 野菜や花の種類を増やして、家庭菜園を作りたい。 |

| V. サービスの成果に関する項目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|------------------|--|-----------------------|--------------|
| 項 目 | | | |
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ○ | ①ほぼ全ての利用者の |
| | | | ②利用者の2/3くらいの |
| | | | ③利用者の1/3くらいの |
| | | | ④ほとんど掴んでいない |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | ○ | ①毎日ある |
| | | | ②数日に1回程度ある |
| | | | ③たまにある |
| | | | ④ほとんどない |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 94 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ○ | ①ほぼ全ての家族と |
| | | | ②家族の2/3くらいと |
| | | | ③家族の1/3くらいと |
| | | | ④ほとんどできていない |

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|-----|---|-----------------------|--------------|
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | | ①ほぼ毎日のように |
| | | | ②数日に1回程度 |
| | | ○ | ③たまに |
| | | | ④ほとんどない |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | | ①大いに増えている |
| | | | ②少しずつ増えている |
| | | | ③あまり増えていない |
| | | | ④全くいない |
| 98 | 職員は、生き生きと働いている | ○ | ①ほぼ全ての職員が |
| | | | ②職員の2/3くらいが |
| | | | ③職員の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての家族等が |
| | | | ②家族等の2/3くらいが |
| | | | ③家族等の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームでは、利用者と接する時間を常に大切にしています。天気の良い日はドライブに行き、買い物や洗濯物干し、洗濯物たたみ、調理で必要な食材を切って頂いたり、食器拭き等、残存能力を生かして生活しています。また、行事（イベント）になると、独自で豆腐作りをしたり、七夕には短冊に願い事を書いて笹の枝に飾ったり、落語の方に訪問してもらい落語を楽しんだり、クリスマスにはホーム内にツリーを飾ってクリスマスパーティーを開いたり、何々の日と付く日はご馳走を用意して祝ったりと、ホーム内では笑顔が絶えません。一つの家族の様に毎日を過ごす中で、一人一人利用者さんとスタッフとのコミュニケーションが一番大切だと思いました。